手芸倶楽部新聞

特別養護老人ホーム　東かなまち桜園

2014年
3月7日号
第7号

第七回の手芸倶楽部は、ご家族も二名参加してくださり、にぎやかに開催いたしました。

今回の造花フラワーアレンジメントはポピーやフリージアが入荷。本物みたいによくできた造花に、「これ本当ににせものなの?」と不思議がる利用者様もいらっしゃいました。

刺し子組は、麻の葉紋様に加え、千鳥格子柄にチャレンジする方も登場。曲線ばかりで難易度が高い柄ですが、とても丁寧に縫っていらっしゃいました。

造花アレンジメントを仕上げてから、刺し子に取り組む方もおり、一時間の手芸倶楽部の時間を存分に楽しんでおられる様子に、職員もうれしく思っております。

伊藤機能訓練指導員より

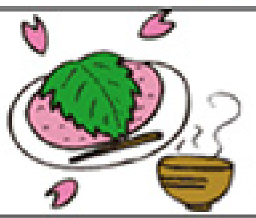
面会中のご家族にも声をかけ参加して頂いています。作業のサポートにもついて下さり、頼もしい存在です。

入居者、家族、職員で楽しい時間を過ごせるにしたいと思います。

次回は四月三日(木)、地域交流室にて十五時半より開催予定です
ご家族の参加も大歓迎です。

手芸のコツ

利用者様が刺し子をしていると き、次にどこを縫えばいいかわからなくなってしまうことがあります。そういうときは、次に縫う線を違う色のちゃこでなぞってあげると迷わず縫えるようになりますよ!



新メニュー紹介

手芸倶楽部では、造花アレンジや、刺し子のプログラムを用意していますが、実はその他にもこんな活動をしています。

これは柔らかなメリヤス生地で手縫いした、手で握るクッションです。こういった介護用品を利用者様が制作し、必要な他利用者様にプレゼントしています。

その方の指の拘縮具合にあわせ、大きさや長さを調節しているので、ぴったりのものがご用意できるのも、手作りの良さですね。

最初は「こんなの縫うのは無理よ、難しいよ」とおっしゃる利用者様でしたが、刺し子を仕上げて自信がついたのでしょう。「やってみる」とトライして下さいました。

プレゼントされた利用者様も大喜びでしたよ!

編集後記：もくもくと刺し子に取り組まれているA様。倶楽部に参加している時「あの~、パジャマのボタンがとれてしまったので、縫いたいのだけど、ボタンあるかなぁ?」とおっしゃいました。大きさの合うボタンを探してきて、裁縫道具を用意すると、上手にボタン付けをしてくださったA様。「ズボンのゴムも入れ替えたいの」とどんどん意欲を出して下さいます。思えば昨年は「手が震えるから縫い物は無理」とおっしゃっていたA様。残存能力は、前向きになればぐんぐん伸びるものなのかもしれません。いつも感激します（平戸）